

平成16年度長野市陸協大会日程

- 4月11日 第6回長野マラソン
- 5月1日 第6回北信地区記録会
- 5月2日 第88回長野市内高校春季大会
- 5月14~16日 第112回北信高校大会
- 5月22日 第21回北信地区小学生大会
- 5月23日 第35回長野市障害者スポーツ大会
- 6月5日 第46回三大学大会
- 6月6日 第43回北信中学大会
- 6月19日 第11回中学混成大会
- 7月10~11日 第57回長野県選手権大会
- 7月17日 第50回中学通信大会
- 8月28~29日 第46回北信選手権大会
- 9月10~11日 第113回北信高校大会
- 9月20日 第8回長野マスターズ長野市大会
- 9月23日 第32回県中学新人東北信大会
- 9月24~26日 第33回長野県高校新人大会
- 10月2日 第6回北信地区記録会
- 10月3日 第18回飯綱マラソン
- 10月9~10日 北信越学生大会
- 10月24日 第89回長野市内高校秋季大会
- 10月31日 第31回NAGANO  
スポーツフェスティバル
- 11月14日 2004テレビ信州ちびっこマラソン

平成16年度長野市陸協会議日程

- 4月3日(土) 新会員歓迎会
- 6月10日(木) 理事会
- 9月2日(木) 理事会
- 11月17日(水) 駅伝壮行会
- 12月2日(木) 祝勝会 忘年会
- 1月11日(火) 理事会
- 2月19~20日(土・日) 研修旅行
- 3月12日(土) 総会

編集後記

梅雨のうっとうしい日が続く今日この頃となりました。  
大会も、次から次と消化して行かねばならない忙しさになって参りました。  
競技が行われた折、会議室使用後の部屋の整理の話が耳に入ってきました。ペットボトル、カンその他使用したものの後片付けのことと思われまます。  
大会の開会式は、準備に追われ、出席される審判員の姿が少ないのも仕方ないことですが、なるべく時間に余裕のある方は、開会式に出席し、選手に姿を見せていただくことで、アップ中の選手に元気を出してもらえるのではと思います。(早川)

栄 章 関 係

長野市陸協より  
平成15年度4名が推薦されました

日本陸連関係では、河野謙三章に、中学校の教師として、優秀な選手を育成され、中学校体育連盟の専門委員長として活躍された、川中島中学校の早川孝一先生。

日本学生連盟関係では、功労章に、長野工専で優秀な選手を育成され、東海陸協検定員として活躍された内山了治先生。

東海陸協関係では、長野市陸上競技教室の指導育成にご尽力をいただき、長野陸協で、副理事長として活躍された山本晴雄さん。

長野陸協関係では、指導者功績章に、長野高校で優秀な選手を育成され、現在、長野県教育委員会体育課におられる田島康彦先生の4名が推薦されまして、それぞれ表彰されます。おめでとうございます。

SHINANO MATE  
SENSITIVE BRAND



ATHLETIC UNIFORM

株式会社 しなのメイト

〒389-0606 埴科郡坂城町大字上五明992-2  
PHONE (0268) 81-1336  
F A X (0268) 81-1337



題字の「動き」は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号が発行されていました。

発行所 長野市陸上競技協会  
発行人 浦野義忠  
編集人 早川千吉郎

16年のスタートにあたり

会員の皆様には、長野市陸協発展のためご尽力、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。至らぬ点が多々あり、皆様方にご迷惑をお掛けしておりますことを反省しながら、今年度は、期待に添えますよう努力して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

第6回長野マラソンでは、コースの変更等で不安もありましたが、皆様のご協力によりまして、無事終了いたしました。本当にご苦勞様でした。また、市内高校陸上部の生徒達は、補助員としての任務を良く遂行してくれました。各校の顧問の先生方・審判員の皆様、ご指導ありがとうございました。

第14回市町村対抗駅伝では、手に汗握るデットヒートを展開し、最終区間高野主将の見事な追い上げで5連覇を達成してくれました。11月開催の長野県縦断駅伝に向け、更にレベルアップをし、連覇を期待いたします。

第88回長野市内高校でも、5種目に大会新記録が誕生しました。全国大会での戦いに期待が持たせていますので、選手諸君の更なる奮起を願って止みません。

私が、生徒達によく言いますことは、「今しかできないこと、今しなければいけないことは何か」「順風

長野市陸上競技協会 理事長 浦野義忠

は待っていても決して吹かない。自分の力で風を起しながら前進しなさい」と。小学生・中学生大会もこれから開催されます。指導されている皆様は、選手達に希望と目標を持たせ、心の底からにじみ出る感動を経験させてほしいと思います。

今年度、長野市体育協会では、第三次長野市総合基本計画に則り、スポーツを軸にしたまちづくりを目指しています。競技団体が計画する競技力向上に資する施策に対し、補助金を交付する要綱が出されました。驚沢長野市長は、「オリンピックを開催した都市として、スポーツを強くする義務と責任がある」また「スポーツが強いと市民が盛り上がるし、スポーツを利用して長野市の活性化を図りたい」と、スポーツに対する応援と絶大の理解を示しています。長野市陸協といたしましても、基本構想補助事業補助金の申請をし、5月11日付けで補助金の交付がありましたので、長野市駅伝部をはじめ、本年度日本選手権を制覇しました山本晴美選手等、指定強化選手に対しまして、遠征・合宿費等の補助をしたいと思っております。指定強化選手・指導者の皆様方は、設定されました目標実現の為最大限の努力をし、期待に応えていただきたいと思います。

長野市駅伝チーム市町村駅伝において五連覇達成

長野市駅伝部 高野和彦

4月29日 松本運動公園陸上競技場巡回コースで行われた第14回長野県市町村駅伝競走大会において、五連覇達成の偉業を遂げた。

今年のチームは、苦しい布陣で望んだが、若い中学生の活躍やベテランアンカー高野の活躍により、優勝を果たすことができた。おめでとうございます。



第14回市町村対抗駅伝を振り返って

今年の市町村対抗駅伝の目標は「五連覇」。何としても成し遂げたい大きな目標でした。

しかし、4月にエース大久保が念願の実業団入りをし、チームとしては喜びの反面、駅伝までの準備期間が少なかったこともあり、戦力的には厳しい状況でした。そんな中でも、チーム内ではしっかりとした競争意

識があり、社会人を中心に雰囲気では盛り上がりを見せていました。ある意味、エース不在が危機意識を高めたのかもしれない。

その結果、中学生の健闘に何とか大学生・社会人が応えることができ、優勝を手中にすることができました。

これは、中学生を指導されている指導者のレベルの高さと選手達の意識の高さ、また、サポート体制の充実が結びついた賜物だと確信しております。

とはいえ、まだまだ課題はあります。自らの経験を踏まえて、選手自身が「何を目標としているのか、自分はどんな選手になりたいのか」が明確でない時は、「何をやっても身ににならない」「レースに出て結果が出ない」そんな状況に陥りやすい、ということを改めて実感した大会でした。秋の県縦断駅伝に向けて、また、さらに上のレベルを目指して、選手一同レース翌日から始動しております。今後ともご指導、バックアップの程、何卒よろしくお願い申し上げます。



# 新会員歓迎会

4月3日、陸上競技会場議室において、本年度入会されました新会員の歓迎会が行われました。

今年は、2名の方が入会されました。長野西高校の市村勝巳先生と、長野高校の小林幸太郎先生です。

両先生とも、高校の大会等で審判を経験されていらっしゃると思います。これからの活躍をご期待申し上げます。

市村 勝巳 (長野西高校)

このたび、新たに長野市陸上競技会の会員に加えていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

去る4月初旬には、競技会長の伊藤先生をはじめ、西片先生、北原先生、浦野先生方ご出席のもと、歓迎会を開催していただき、市陸協の厚い歓迎に大変恐縮致しました。勤務先が長野市内ということもあり、地元とは異なる陸協に入会することにしました。

高校顧問として、陸上競技と係わるようになってからすでに長い年月が過ぎ、以前から市陸協の諸先輩には、大会を通じてご親切にご指導を頂いて参りました。

これからも、選手の支援を第一とし、大会運営の一助となるよう心がけたいと思いますので、今後ともご指導をお願いします。



小林 幸太郎 (長野高校)

このたびは、長野市陸協の仲間に入れていただき、本当にありがとうございます。

先日は、新会員のために歓迎会まで開いていただきました。その会の中で、公認審判員のネームプレートをいただきました。過去、自分が競技者だった頃は、いろいろな審判員の方々の支えがあり、大会に出ることができました。

これからは、自分が審判員として、いろいろな大会を支えていきたいと思っています。まだ審判員として未熟ではありますが、いろいろな経験を積み、早く先輩の審判員の皆様のお力になれるように頑張りたいと思います。これからよろしくお願いいたします。

# 陸上クラブ紹介 No.4

## 長野工業高等 陸上部

4月に入り、シーズンが始まると、土曜、日曜がなく、陸上の大会に携わる毎日が続きます。普段、本校の生徒の指導にあたる時には、お互いに厳しい顔つきでにらみ合うことが多いなか、時折、利害関係のない選手の大会では、陸上競技を客観的に観させてもらえる機会ができる。ちょっと肩の荷が下りる瞬間です。山の中にいると見えない風景が、離れたところにいると、よく見えることと同じで、こういった時間を大切にしないといけないと最近つくづく感じます。

本校の陸上部員は23名、もともと男の生徒が圧倒的に多い中で、男女共々活動をしている部活動は稀で、わが陸上部もその一角であります。一人一人の生活そのものが競技に深く関与する陸上競技は、校内での活動そのものは地味な方で、声を掛け合い、

激しいぶつかり合いを強いられる集団競技の先生方から「陸上はどこで何をやっているのかよくわからない」と言われることもあります。しかし、一人一人は、一生懸命に自分と戦い、ひたむきに陸上競技をしている選手集団です。最近になり、競技成績が全国クラスの選手が、本校から育つようになり、私自身さまざまなことを学ばせていただきました。しかし、競技のレベルアップには、技術指導も当然必要なわけですが、日頃の生徒との接点が、最も重要と考えます。時折、忙しさにかまけて様子を見ないでいると、すぐに選手の志気が落ちてしまい「やれ！」と言って一点張りしていると、選手の顔つきが厳しくなり、私のほうが怖くなってしまふこともあります。そんな時は、呼吸を合わせて、相手の息づかいがわかるまでひたすら時間をかけます。私ができることは、そのくらいのことなのかもしれないと思っています。

嬉しいことは、本校から卒業していった選手たちが、後輩たちをいろいろな方法で励ましに来てくれることです。

先週、地区のインターハイ予選がありました。樋口大会会長より大変ありがたい励ましの言葉をいただきました。

これからは、声援を受けながら、感謝の気持ちを忘れずに、陸上競技に携わり、生徒指導をしていきたいと思っています。

顧問 矢野 清隆



# 第2回 ホープさん 長野工業高校3年 柳澤恵子

## 自分を持ち続けること

昨年の春、足を痛めて動けず、跳びたいのに跳べない時が、何ヶ月も続いた。あの時は、ほんとかやしくて、動けない自分が憎くて憎くてたまらなかった。でも、今思えば動けなかったからこそ自分自身を見直すことができ、昨年の秋に160cmを跳ぶことができたんだと思う。そして、自分が変わった気がする。

例えば、考え方。昔は順位が気になって仕方がなかったのに、今は順位より記録が前提にある。そう思うことで、自分がでっかくなる気がするし、自分だけには負けたくない。他にも、朝練習を試みたり、秘密練習を試みたりする。

今、一番はまっていることが、秘密練習で、この前行われた市内大会では、その成果が発揮されなかったかなと思う。多分、秘密練習が好きなのは、人と比べられるのが嫌いだからだと思う。よく、あの人はこうしてる、この人はこうしてるって聞くけど、だから？って思う。私は、自分の考えをつき通す。大会に出た時に、私が自分を潰さないように自信をつけていきたいから。

泣いても笑っても、あと半年もすれば、私の陸上生活は終わってしまう。だから、終わったあと、いっぱい笑えるように、最後まで自分に負けず、目標を持ち続けて、私流の陸上を楽しんでいくぞ！！

# 思い出の写真シリーズ

## 県営松本陸上競技場(浅間)を思う 《第3回》

長野市陸上競技協会 顧問 古澤 久四郎

古い人間のせい、松本の陸上競技場と言うと、浅間の競技場が思い起こされます。

競技場を作るにあたり、県民からの問題も多かったようですが、大正13年、浅間に陸上競技場が造られました。将来は、桜の名所にしたいという考えもあり、桜を植えたのです。長野市の西沢書店さんから桜の苗1万本の寄付がありました。

現在、その桜が大きくなり、競技場を囲み、大自然の中に競技場があるような環境が素晴らしく、心身ともに何か培われるような気がして、私には楽しい競技場でした。

大正15年9月には、県下中等学校陸上競技大会が行われました。昭和3年頃からの経済恐慌で、予算が削減され、一部思想的に排撃に追い込まれることもありましたが、松本市長等の反対でまぬがれ、その後は、県連合青年団の大会をはじめ、中等学校、大学等の合宿や大会が盛んに行われました。

大東亜戦争で利用者が少ない時期もありましたが、終戦をむかえ、昭和23年の第1回長野県陸上競

技選手権大会を始めとして、県内外の各種大会が浅間陸上競技場を中心に開催されてきました。

その間に、オリンピック出場の田中秀雄さんやアジア大会出場の伝田扶夫さんを始め、多くの諸君がこの浅間の競技場の土を踏み、成長し、素晴らしい選手として活躍しています。

